

講義室

アクティブラーニングルーム

自然科学研究棟  
102

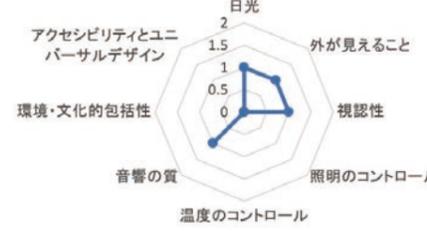
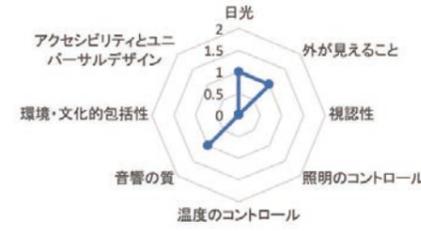
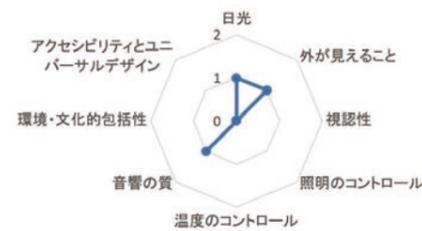
自然科学研究棟  
WS

総合教育棟  
講義室

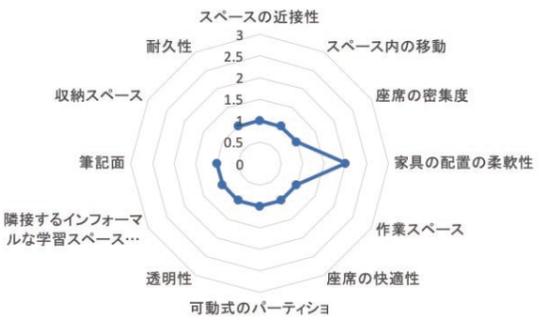
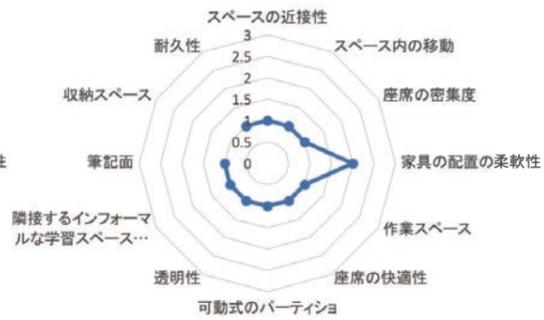
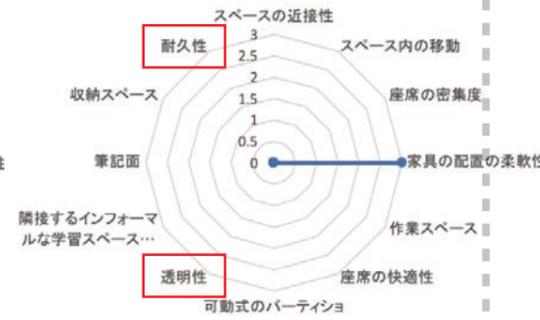
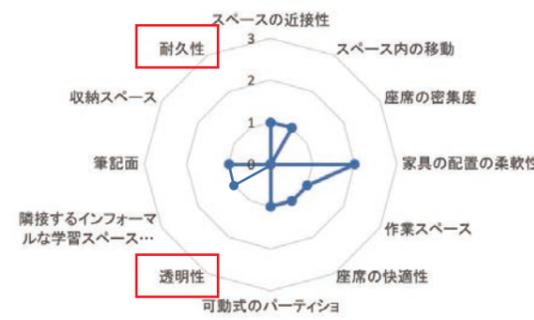
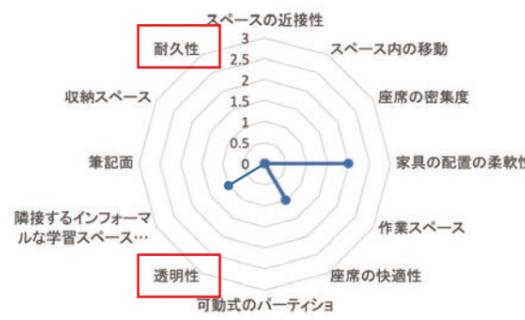
自然科学研究棟  
オープスタジオ

中央図書館  
グループスタジオ

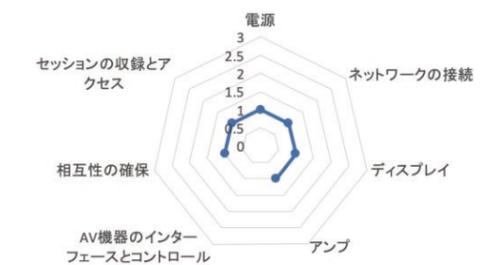
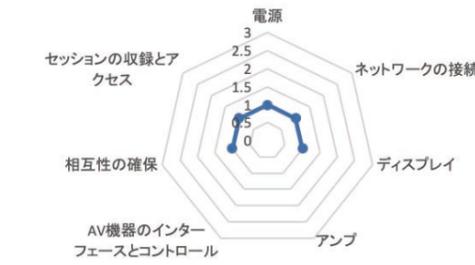
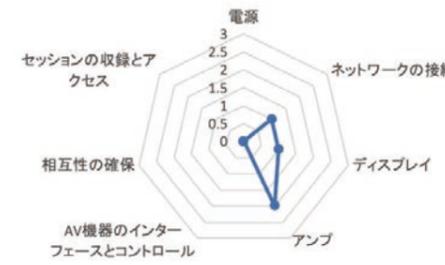
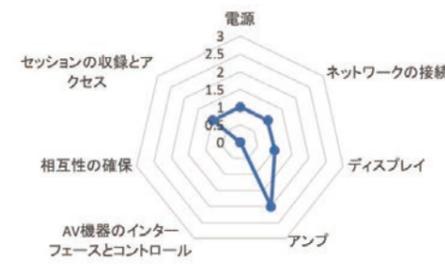
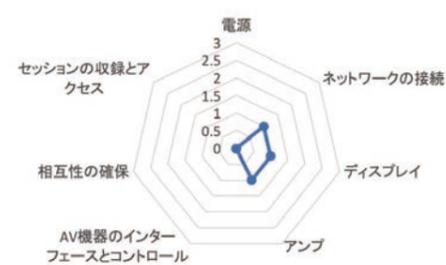
環境の質



レイアウトと家具



テクノロジーとツール



<分析>

- 環境の質のセクションにおいては、「環境・文化的包括性」「アクセシビリティとユニバーサルデザイン」が講義室側では評価されないのに対し、アクティブラーニングルームにおいては評価されている。特に「環境・文化的包括性」については、ヒアリングにおいてもアクティブラーニングルームは満足されていることがわかった。
- レイアウトと家具のセクションにおいては、講義室は柔軟性や更新性に関わる部分の評価が低い。それは、従来の受動的学習のために作られていること、確保しなければならない席数が要因として挙げられる。授業形態に応じた環境面の整備が必要と考えられる。

<提言>

- 家具の入れ替え等に対応されている WS のような講義室もあるが、いまだアクティブラーニングを推進するような講義室が少ないといえる。柔軟性や更新性を確保する際には、意匠面における改善も必要といえる。

講義室



家具のみその他の講義室と違う

アクティブラーニングルーム



OAフロア化に伴いタイルカーペットで変化をつけている